

包括的核実験禁止条約（ＣＴＢＴ）賢人グループ会合
オープニング・セッション 中根政務官による御挨拶
（岸田大臣からのメッセージ代読）

２０１５年８月２４日（月） 於：広島

賢人グループ・メンバーの皆様，
ゼルボＣＴＢＴＯ事務局長，
御列席の皆様，

被爆７０年を迎えた今月，賢人グループ・メンバーの皆様をこの広島にお迎えできることを大変嬉しく感じ，広島出身の外務大臣としても，重ねて感謝申し上げます。ＣＴＢＴ発効に向けた賢人グループ・メンバーの皆様の熱意に敬意を表するとともに，主催者であるＣＴＢＴＯ事務局の皆様，更に本件会議開催にあたり御協力頂いた広島市の皆様に感謝申し上げます。

本日，ここ広島においてＣＴＢＴ発効促進のための会合が開催されることは大変時宜を得たものであると感じます。

（① 被爆７０年における日本の誓い）

第一に，今月は，被爆７０年を迎えた日本国民にとって特に重要な節目の月に当たります。８月６日及び９日には，それぞれ広島及び長崎において，被爆７０年記念式典が執り行われ，過去最多数の国が参列しました。日本中が，これまで以上に，平和と「核兵器のない世界」に向けた深い思いに包まれる中，今次会合が被爆地で開催されることは，今後の核軍縮に向けた新たなステージの始まりとして，国際社会に効果的なメッセージを発信するものと確

信しております。

(② 国際情勢を踏まえたCTBT発効への機運)

第二に、今春NYで行われたNPT運用検討会議及びその後の国際情勢を見ますと、CTBTの発効に向けて新たな機運を高めるチャンスとも見ることができます。

日本は、本年からCTBT発効促進共同調整国となる立場からも、CTBTに関する提案を行い、最終文書案に多くの進展が反映される結果となりました。

同会議において、最終文書案が採択されなかったことは大変残念ではありましたが、実際には、CTBT早期発効に向けた力強い文言を含めその内容についてはほとんどの国が受け入れる用意があったと聞いています。中東で勢力を拡大するテロ等不安定な国際情勢に呼応し、核軍縮の進展への追い風が決して強いとは言えない中でも、これは核軍縮に関する前向きな要素として捉えられるのではないのでしょうか。

CTBTの発効は、発効要件国の政治的意志に大きく左右されるからこそ、流動的な国際情勢の中では、これらの国による批准の好機がいつどこに潜んでいるかは誰にも分かりません。CTBT発効のための鍵となると言われている米国も、オバマ大統領の下で同国のCTBT批准に向けた努力が継続していると承知しています。その瞬間のために我々は希望を失わずに努力を積み重ねていくべきなのではないかと思えます。

(③ 被爆の実相の伝承)

第三に、本件会合の意義として、ここ広島が、70年前に世界で初めて人類に対し原爆が投下された場所であることが挙げられます。以来、日本は、原爆使用の惨禍を誰よりも知る立場から、二度と同じ悲劇を繰り返すべきではな

いと強い決意の下、核軍縮・不拡散の推進に取り組んできました。

私自身、先般のNPT運用検討会議の一般討論演説において提案した5項目の一つとして、政治指導者の被爆地訪問を呼びかけました。被爆の実相は、実際に被爆地を訪れ、自らの目と耳で実感することによってのみ、核使用の脅威を本当の意味で知ることができ、これが核実験の禁止を含めた核軍縮を促進する原動力に繋がるものと信じています。今回の会合期間中、ご参加の皆様にも被爆の実相に触れて頂く機会があると承知しております。是非自らの感じられたものを持ち帰り周囲の方々に共有頂き、そこから核軍縮を後押しする流れを強化して頂きたいと願っています。

(結語)

「核兵器のない世界」に向けた道のりは、決して平坦ではありません。しかし、CTBTの発効はその実現に向けた重要なステップであり、今次会合が様々な意味でモメンタムを与え得る場であることを再度強調したいと思えます。この会合を通じ、日本としても賢人グループ・メンバーの皆様のご経験と知見に学び、9月にNYで行われるCTBT発効促進会議において、共同議長としての立場から、CTBTの発効に向け一層尽力していきます。

また、より広く核軍縮・不拡散の推進に向けた具体的貢献として、日本は、これからの核軍縮・不拡散の指針とすべく、今秋の国連総会第一委員会に新たな核兵器廃絶決議案を提出します。

今次会合が、国際的な核軍縮・不拡散における新しいうねりをもたらし、広島宣言が新たなフェーズの始まりとなることを祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。

ご静聴，誠にありがとうございました。

(了)